

日本画



Masahiro Sugimoto

《石の街Boston》（日本画F4号）

個展 一終わらない絵コンテ2009～2011— 銀座・月光荘  
2011.9.20(火)～26(月)にて発表

## 《石の街Boston》

---

杉本昌裕

日本画を始めるときは、大学受験で日本画を選んだからである。なぜ日本画かといえば、油画は難しそうだし、デザインはアイデアが浮かびそうに無いからだ。思えば安易な自己決定である。それが影響したのか大学に入れば、日本画の難しさに直面していた。描きかけの絵、途中で投げ出した絵が溜まっていく。これではいけないと奮起し日本画を描くのだが、構図や色の組み合わせなどなかなか上手くいかない。でき上がった作品もよいのかわるいのか判断がつかない。それでも描き続ければ何か見えてくると信じ画面に向かった。この頃の経験が今の自分をつくっている。

今年9月の個展に向け2年前から準備を進めていた。木彫や工芸作品も加えた会場演出を練り制作が進んでいた時、大震災が起り気持ちに変化が起こる。今回は日本画だけにしようと思直感した。制作もその頃は捗らなかった。8月も後半になり個展が近づき、4～5枚の絵を同時に描き進めていくと、心と体が学生の頃を思い出す。久しぶりに日本画に没頭し、搬入直前に描き上げたのが《石の街Boston》である。刷毛目が残っていたり、書き込みが足りなかったりする部分も多い。でも、それも自分らしいところである。

いろいろなことがあったから描き上げられた1枚である。また、原点にもどって日本画を見つめ直そうと決めた展覧会の1点である。